

農林水産省 東北農政局

第 1 号

平成27年11月発行

秋田支局ニュース

秋田支局では、管内農業者及び関係者等の地域活性化に向けた最新の取組を紹介します。

Akita Branch Office,
Tohoku Regional Agricultural
Administration Office

第138回秋田県種苗交換会 in 鹿角市

秋田県農業の祭典に県内外から80万人来場

第138回秋田県種苗交換会（主催：秋田県農業協同組合中央会）が、10月29日～11月4日にかけて鹿角市で開かれ、県内外から80万7千人（主催者発表）が訪れました。

鹿角トレーニングセンター「アルパス」をメイン会場に、農産物出品展示を始め、農商工フェアや農業機械化ショー、生産者や行政を交えた「えだまめ日本一」を目指した取組について」の談話会、秋田県産米品評会褒賞授与式など農業に関連する様々な展示・物産販売や催事が行われました。



【メイン会場となった鹿角トレーニングセンター「アルパス」】

【種苗交換会の様子】



【厳かな雰囲気で行われた新穀感謝農民祭】



【受賞した農産物等に見入る来場者】



【工夫を凝らした加工品がずらり】



【リンゴの産地ならではの逸品揃い】



【最新の農業機械が勢揃いした農業機械化ショー】



【県内各地の小学校等が農園活動を説明】

「種苗交換会」のはじまり

秋田県種苗交換会は、隣村との交流も少ない閉鎖的な農村社会で、お互いより良い種子を見せ合い、交換することで農業を発展させていこうと県が会議を持ったのが始まりです。

明治11年に県勸業課長樋田魯一氏が主催して、秋田市の浄願寺を会場に第1回の勸業会議が開催されています。石川理紀之助翁はその会議の推進役となり、第2回目からは幹事に就任しています。

この種苗交換会は日清・日露・太平洋戦争中においても休会することなく続いており、秋田県最大の農の祭典となっています。

※参考文獻：「種苗交換会記録」
JA秋田中央会刊



【種苗交換会のシンボルマーク】

秋田支局も種苗交換会の主会場で参考展示

T P P 大筋合意など農政課題に関心を寄せる

【箸の達人ゲームを見つめる来場者】



秋田支局は、種苗交換会の開催期間中、鹿角トレーニングセンター「アルパス」内に「東北農政局秋田支局」ブースを開設しました。

農政関連のパネルや各種パンフレットを展示するとともに、滑りやすい塗り箸で「大豆」や「小豆」を30秒間でいくつ移せるかを競う「箸の達人」ゲームを提供した。箸使いの上手さを競うこのゲームには、多くの参加者が悪戦苦闘しながら挑戦していました。

秋田支局展には、T P P 大筋合意内容などの農政課題等に関心を寄せる520人を超す来場者がありました。



【相談に応じる支局職員】

第138回 秋田県種苗交換会 農林水産大臣賞受賞

「大日堂そば」〔農事組合法人 大里ファーム〕



【認定証を手にする大里ファーム役員】

品出展数153点の中で最高賞の農林水産大臣賞を受賞されました。

大里ファームは、「夏そば：階上早生」「秋そば：にじゆたか」を導入し、乾麺でもおいしく加工できるそばの栽培に取り組んでいます。その自家生産したそばを原料に、ユネスコ無形文化遺産「大日堂舞楽」にちなんだ新商品（乾麺）を開発し、土産品として直売所、ホテル等で販売することにより、生産したそばの高付加価値化と農業経営の改善を図っています。

6次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画認定事業者（平成27年5月29日認定）の「農事組合法人大里ファーム」が出展した「大日堂そば」（乾麺）が、鹿角市で開催された、第138回秋田県種苗交換会の農林園芸加工



【農林水産大臣賞受賞の大日堂そば】



【晩年の石川理紀之助】

秋田県種苗交換会の創設者の一人で、農業指導者として県内外で農村振興に尽力し秋田県農業の神様といわれた「石川理紀之助」の没後100年を迎えました。

改めて「石川理紀之助」の功績を探るべく、潟上市昭和にある「潟上市郷土文化保存伝習館・石川翁資料館」を訪ねました。

資料館は、石川理紀之助翁遺跡地にあり、7年間で8郡49町村の土壌、経済状態、生活習慣、働き方などを調べ、集落の救済に取り組んだ歴史資料が展示されています。

資料館を囲むように、晩年の住居だった尚庵や飢餓に備え玄米や麦などを蒸して保管していた備荒倉（びこうそう）があります。また、59歳の時、後継者であった息子が病死し、父を失った孫を育てるために建てた梅廼舎（うめのや）など8つの遺跡が残っています。

石川理紀之助翁が信条としていた「経済のこと葉」（14ヶ条）のひとつ、「寝ていて人を起すことなかれ」（人より早く起きて働くこと。率先垂範の意味。）は、勤労秋田県民の心に引き継がれていることばです。



【晩年暮らした石川理紀之助の住居遺跡が残っている】



【伝習館の中には、貴重な記録が総合展示されている】

※写真協力：潟上市文化スポーツ課・潟上市郷土文化保存伝習館/パンフより

秋田県農業の神様
「石川理紀之助」を探る

没後一〇〇年を迎えた

＜秋田支局からのお知らせ＞

10月1日に東北農政局「秋田支局」を開設 現場と農政を結ぶための相談業務を展開

農林水産省では、「農林水産業・地域の活力創造プラン」や新たな「食料・農業・農村基本計画」に基づく農政改革を現場レベルで着実に推進していくため、地方農政局長直属の現場と農政を結ぶ機能を担う「地方参事官」を各県に配置するなど、10月1日に地方組織の再編を行いました。秋田県においては、秋田市に地方参事官のもと「東北農政局秋田支局」を新たに設置しました。

秋田支局では、秋田県の農林水産業の実情を踏まえ、多様化する現場のニーズに即応し、「強い農業」と「美しく活力のある農村」の実現に向け、関係機関の皆様と協力して、現場に最新の農政を伝える、現場の生の声を汲み上げる、現場と共に解決するという農政全般の相談業務に取り組んでいます。

【取材者コメント】

秋田県種苗交換会は、明治11年から永い歴史を積み重ねてきた秋田県最大の農の祭典。今年は、「鹿角から未来につなぐ農の禱（たすき）」をキャッチフレーズに、生産者が丹念に育てた一流の技の結晶ともいえる農産物が数多く集まり、秋田県農業の質の高さを感じました。出品された個のすばらしさはもとより、産地としての地位を確立するには、市場における一定のロットと継続した出荷が欠かせないことから、それに向けた関係者皆様の懸命な取り組みにも頭が下がる思いでした。

秋田支局では、地方創生につながるようなきっかけになればとの思いから、これまでの「ATCニュース」を引き継ぎ、地域における特徴的な取組を発信してまいりますので、よろしくお願ひします。



秋田支局庁舎(秋田市山王7-1-5)